

目的

大学での充実した学習と、
情報社会での活躍を保障する
「ライセンス」を、熊本大学
に学ぶすべての学生に取得さ
せること。

情報リテラシー ＝現代社会の基本ライセンス

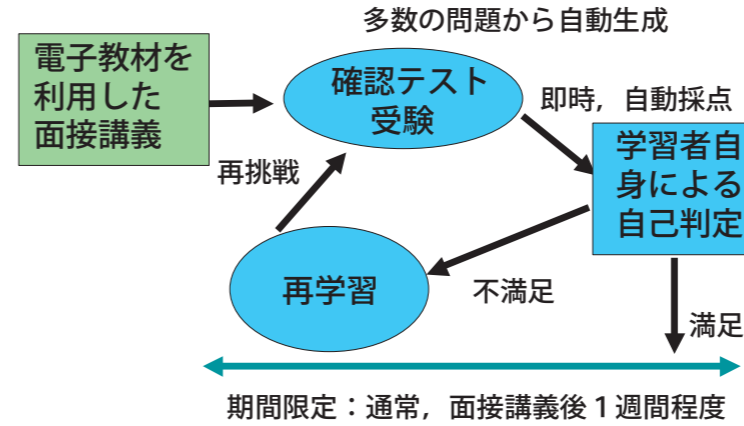
* 「ライセンス」なしのネットワーク利用は、
無免許運転に例えられる。

+利用技術
+法的規制, マナー
+緊急事態への対応

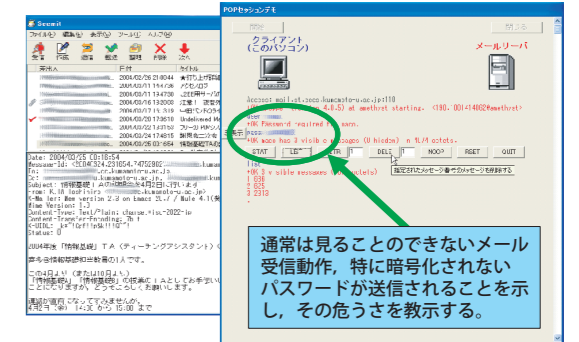
+運転技術 <技能試験>
+交通法規, 運転マナー <学科試験>
+事故等への緊急対応 <学科試験>

ライセンスには、上記すべての習得が必要。

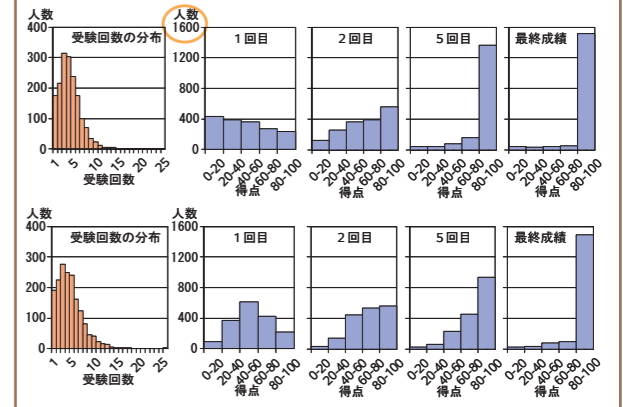
LMSによる「学習と確認の連鎖」



独自開発教育用メールソフト: Seemit



確認テストにおける成績推移



熊本大学における情報リテラシー教育実施体制

e-Learningを用いた教育手法

- *ラーニング・マネージメント・システム(LMS)の積極的活用
- *統一的管理運営:
電子教材の共同開発
統一的评价基準に基づく成績評価
- *擬似個別学習:
LMSを駆使した学習者自身による「学習と確認の連鎖」の実現

専任教員による強固な教科集団

- *総合情報基盤センター専任教員7名による実施体制
＝学内措置による改組の実現
- *独自教育用ソフトウェアの開発
＝メールソフトSeemitの開発

情報基礎A 1年前期
情報基礎B 1年後期
全学必修科目

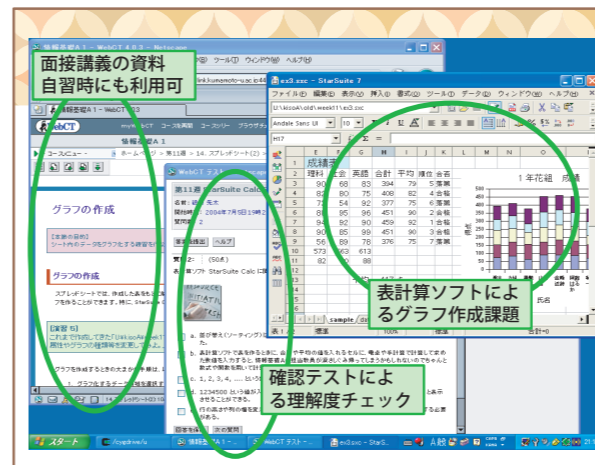
全学合意に基づく
支援体制の確立

教育環境の全学的整備

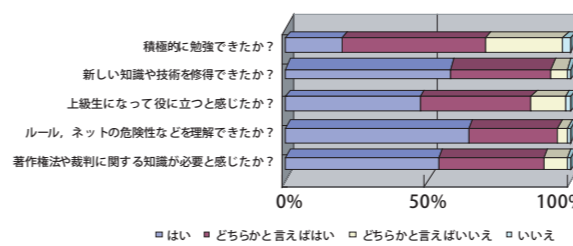
- *学内のどこでも同じように利用できる920台以上のコンピュータを整備
- *上記コンピュータシステムを運用するための専用教室(最大900名収容可能)
- *パスワード管理された全学約100箇所以上の無線LANアクセスポイントの整備

全学科必修科目

- *文学部, 法学部, 教育学部, 理学部, 工学部, 医学部, 薬学部
全学での教養教育科目としての必修科目
- *全学で、均一な教授内容、評価を実施



情報基礎B受講者のアンケート結果 (回答者数 1764名, 内合格者数1728名)



9割の学生が、肯定的に捕らえている。

情報収集 基本アプリ ネットチケット

シラバス(講義内容)

- | 平成15年度情報基礎A(前期) | 平成15年度 情報基礎B(後期) |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1. ログインとWindowsの基本操作 | 1. エディタの使用法とフォルダ |
| 2. 学務情報システム(SOSEKI)使用方法 | 2. HTML1 (HTML ファイルの作成と閲覧) |
| 3. 情報倫理1 (コンピュータウイルス等) | 3. HTML2 (基本構造, 文字飾り, 簡条書) |
| 4. 電子メール1 (電子メールの基礎) | 4. HTML3 (画像, アニメーションGIF) |
| 5. エラー対処, 文字コードと文字化け | 5. HTML4 (表, フレーム, メタ情報) |
| 6. ワードプロセッサ1 (レイアウト) | 6. HTML5 (構文チェック, スタイルシート) |
| 7. ペイント (イメージ画像作成, 編集) | 7. FTP によるアップロード |
| 8. 情報倫理(2) (知的所有権等) | 8. 電子メールのしくみ(SMTP, ヘッダ改竄) |
| 9. スプレッドシート1 (数値, 式の入力) | 9. ネットワーク社会での法的責任(裁判事例) |
| 10. スプレッドシート2 (作表と関数) | 10. JavaScript入門1 (基本構文, 演算子) |
| 11. ドロー (作図, ギャラリー利用) | 11. JavaScript入門2 (関数の基礎) |
| 12. 情報検索 (検索エンジン等) | 12. JavaScript入門3 (条件分岐, 繰返し) |
| 13. ワードプロセッサ2 | 13. JavaScript入門4 (イベントの応用) |
| 14. プレゼンテーション | 14. JavaScript入門5 (サンプル集と実用例) |
| 15. 情報倫理3 (不正アクセス等) | 15. ツールによるHTMLファイル編集 |

統一的成績評価

- *確認テストの最終成績と提出作品による総合評価。(評価基準は、全クラス統一)
- *確認テスト: 期間内の最高得点
提出作品: 作品の評価基準の統一
記述文法の自動採点
- *総合評価
「優」 全ての項目を所定期限内に十分習得
「良・可」 所定期間外を利用して習得
即ち、「合格者」＝「ライセンス」取得者

まとめ

- 目標:
情報リテラシー「ライセンス」の全員取得
- 到達点:
全学的支援体制に支えられ、目標が達成されている。
教育課程の改善手法のみならず、その教育効果自体が社会的な意味を持っている。



KUMAMOTO UNIVERSITY

世界に通用する「ライセンス」

- *社会的に認知された高度な教育内容
＝著作権分野が、昨年度JICAで英語教材化
- *独自教育用ソフトウェアの開発
＝メールソフトSeemit
他大学での利用実績
海外からの利用要請
HSPコンテスト2003入賞

将来展望

- *情報基礎教育のいっそうの充実
教育用ソフトウェアの開発
コンテンツのデータベース化
(教材, 例題, 課題, 確認テスト問題)
- *学内での情報基礎教育の徹底
FD分野, SD分野での利用
「初級アドミニストレータ」等資格取得支援
- *地域貢献, 特に高大連携への活用
- *JICA等を通じての国際社会への貢献